

新型コロナウイルス感染症について（最終版）

R2/5/24 院長

★流行の収束に向けて

約3ヶ月にわたり、毎週新型コロナウイルス感染症に関する情報を発信してきましたが、今回でいったん終了とします。今までお伝えしたかったことは二つ、希望と最後の砦で頑張る病院関係者へのエールです。終わらない流行はないので、困難と不安の中でも希望を持って欲しい、そのためには正しい情報が必要です。使用したデータは全て公的機関が発表したものです。そして、不安感を助長しないように感染のピークに達するまでは不確かな情報に基づく私見を述べることは出来るだけ控えました。そのような中で、コロナに罹患した患者を受け入れてくれる病院がある有り難さを痛感する日々でした。今回は、今まで予想した事柄や私の意見が結果的に正しかったのかをファクトチェックしてみます。

★感染力はインフルエンザほどではない

✔正しい

初期の中国のデータで既に感染力に関しては2月の段階でそれほどではないと結果が出ていました。5/23時点での国内の患者数は16362人で、例年流行するインフルエンザが1000万人以上罹患しますので約千分の1です。2009年の新型インフルエンザの時は国内で感染者は約2000万人でした。コロナは感染しても無症状のことが多いのでおそらく実数はもっと多いと思いますが少なくともインフルエンザほどではないのは確かです。世界最大の感染国である米国でも現在約155万人ですからインフルエンザより少ないのです。

★重症度はインフルエンザよりやや重い

✔何とも言えない

死亡率は真の感染者数が分からないと不正確になりますので結果の解釈には注意が必要です。5/23時点での国内の死亡数は808人で世界で多い方から28番目です。例年のインフルエンザによる死亡数よりも少なく、年間に肺炎球菌による肺炎で亡くなる方が数万人いるので、それと比べても少ない数です。感染者数がインフルエンザや肺炎球菌性肺炎よりも少ないので、死亡数が少ないのは当然ではありますが、**実は日本と同等あるいは多い感染者数でも死亡数が日本より少ない国が下表のようにたくさんあります**。他国は何故死亡数を少なくできたのか謙虚に検討する必要があります。

報道でよく見る”日本の死亡者は奇跡的に少ない”ということは全くありません。急激な患者数の増加やマスクやフェイスシールド、防護服などの備品の不足による医療崩壊が起きた国々では死亡率・死亡者が桁外れに多くなったのは最大の教訓となるでしょう。

国名	感染者数	死亡数
日本	16536	808
シンガポール	31068	22
クウェート	20464	148
韓国	11165	266
カタール	42213	21

★街中でのマスク着用は不要

✔何とも言えない

厚労省も今まではソーシャル（フィジカル）ディスタンスがとれる街中でのマスク着用は勧めていませんでしたが、外出時はマスク着用の方針に5/8に急に変更となりました。米国でも布マスクの着用を推奨する立場に変換しました。状況が落ちいついたら有効性についての検討が必要と思われます。私は今でも健康な人が街中で、ソーシャルディスタンスがとれる状況でのマスク着用は不要だと思っています。コロナに感染しても無症状の人が多いのは事実ですが、そのような人が本当に感染力があるかは実はまだはっきりわかっていません。症状のある患者から感染することの方が圧倒的に多いのが現実です。

医療現場でのサージカルマスクの不足は相変わらずです。ほぼ半年間マスクの供給は当院ではゼロに近い状態が続いており、高圧蒸気滅菌や紫外線滅菌等を駆使して再利用して在庫が減るのをできるだけ防いでいます。インフルエンザの流行前にマスク等の感染予防に使用する備品の流通が正常化するのを祈るばかりです。

★安易なPCR検査拡大に反対

✔何とも言えない

前回詳しく述べましたのでここでは簡単に述べます。100%正しく診断できる検査はありません。検査の特性を見極めた方針が重要です。コロナのPCR検査は感度が十分でなく特異度は良い検査ですので、検査の前にその患者さんがどの程度感染が疑わしいかの確率を上げておくことが重要です。無症状の人を闇雲に検査するのではなく、疑わしい症状の有無やレントゲン検査等での肺炎の有無などの情報を総合して検査をするかどうか判断する従来の日本のやり方は妥当です。（詳しくは先週のver.12をご参照ください）

★昨年に既に日本では流行していた

✔何とも言えない

何故日本は流行がそれほど多くなかったのか？何故昨シーズンのインフルエンザの流行は日本はこの10年で一番少なかったのか？

新型コロナウイルス感染症の80%は軽症、いわゆるかぜで終わります。昨年11,12月の方が実は今から思えばコロナを疑う症状のかぜ、軽い肺炎の方がクリニックの現場では多かった印象です。今年に入り、大騒ぎになってからはほとんど怪しい患者さんは見えていません。本当に多いのであれば内科系のクリニックに大勢怪しい患者が増えるはずですが、1,2月と全然怪しい患者が増えなかったのも、日本ではそれほど流行しないと予想し、その通りになりました。今後の解明に期待したいところです。

★終わりに

今回の騒動で一番心を痛めたのは、感染者や医療従事者への不当な差別・偏見です。逆に、かかりつけの患者さんや古い友人からマスクの寄贈を頂き本当に嬉しかったです。この場を借りてお礼を申し上げます。普段の日常はまだまだ遠いですが、フィジカルには距離をとっても人を思いやる心は忘れない社会であって欲しいと思います。